

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	1101	学校名	松浜小学校	校長名	小坂井 秀行	作成者名	牛腸 賢一
学校教育推進サポート担当者名			牛腸 賢一			電 話	025-259-2045

1 実践のテーマ

「支持的風土の醸成と自立を促す生徒指導の戦略的实施」
 ～自己肯定感を高める学校教育の推進～

2 テーマ設定の理由

近年、社会の急激な変化や核家族化・少子化の影響から児童は社会性を身に付けるには十分な状況にあるとはいえない。また、生徒指導上の諸問題も多岐にわたっており、当校も同様の様相を示している。これらの課題解決的生徒指導ケースの減少のためには、ケースへの対応も進めつつ、これを生まない予防的生徒指導と成長を促す生徒指導を積極的に行い、「これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育成すること」が大切である。また、課題解決的な生徒指導では、教職員がチームで適切な初期対応を実施することで、重大な事案への出現を防ぐことができる。以上のような積極的な取組は、新潟市で生徒指導に困難を呈している学校への改善モデルとなると考える。

3 実践内容

当校では、日々生徒指導案件に追われている。そこで、人間関係の希薄さを解決し、生徒指導問題を未然に防止するために、『支持的風土の醸成』に力を入れる。これにより、児童は、かかわりを重視しながら、自分自身と他者をかけがえのない存在として受け入れ「自己肯定感を高める」ことが出来る。また、『学習活動』においては、何らかの理由で学習の習得困難となっている児童は、自己肯定感を下げる傾向にあることから、児童全員が参加でき学びのある学習になるようにUDLを基盤に協同的な授業実践をすることで、ストレス状態が減りより温かい学級風土が築ける。さらに、学校支援課生徒指導班が示している『自立を促す生徒指導』の、児童理解に基づいた「ルールとリレーション」とR5年度新たに提案された「いじめの知識理解授業の実施と道徳授業、いじめの早期発見と適切な初期対応」を展開する。これらの取組により、新潟市生活・学習意識調査・全国学力学習状況調査における自己肯定感を指標とする項目で肯定的な回答の割合が増加するとともに、いじめの認知件数が認知感度を下げずに減少するとともに、学校に起因する不登校児童及び不登校傾向の児童数が減少すると考える。

具格的には以下の5点を実施する。

- (1) UDLを基盤に、子どもの学習・体力状況に応じた、分かる・楽しい共同的な授業づくり
- (2) 多面的な児童理解（傾聴・受容とコミュニケーション，行動観察，同僚や保護者との情報連携，客観的データの分析）に基づいた生徒指導の実施
- (3) 学級力アンケート（特別活動）の実施による自治的生徒指導の実践
- (4) 傾聴と共感を軸とした、互いを認め合い、高め合える支持的風土の醸成
- (5) いじめの知識理解授業の展開と道徳授業とチームによる適切な初期対応の実施

4 実践計画

実施時期	実施内容（研修会、先進校視察、授業公開 等）
	<p>成長を促す(一次的)支援 ○教職員・児童のいじめ知識理解の促進 ○知・徳・体・支持・特支の5部会の運営</p> <p>予防的(二次的)支援 ○積極的ないじめ認知 ○チーム支援による、いじめの適切な初期対応 ○児童生徒の個別アセスメントにもとづいた、学級経営サポート</p> <p>課題解決的(三次的)支援 ○困難行動児童生徒のケース会議 ○教育相談体制のコーディネートと個別相談の実施 ○いじめ・不登校対策会議の実施 ○特別支援に関するケース会議 ○関係機関との連携</p> <p>【研究推進1】・・・(1) 学力向上と生徒指導 生徒指導を意識した、「かわわめ」 「言語活動」を大切にした授業づくり ・NIC研修（通年）</p> <p>【研究推進部2】(1)(4) 協同的な学習の実践 相互依存性・相互交渉・個人 としての責任・社会的スキル・ 集団の改善スキルの5つの基本 要素を理解し、小集団を活用し た教育実践 ・通年</p> <p>【特別支援部1】・・・(1) UDLによる授業の実施 ・教職員によるUDLチェック (定期的)</p> <p>【特別支援部2】・・・(2) 子どもが示すサインの 理解と具体的対応 学級担任が、児童生徒が示す行 動の意味について理解を深め適切 な対応を実施する。 ・特支研修（8月）</p> <p>【チーム支援会議】・・・(2) ・チーム支援会議の実施（適宜） ・特別支援が必要な子どものアセス メントと具体的支援の実施（適宜）</p> <p>【生徒指導部1】・・・(2) 児童理解による学級経営 人間関係が良好な学級をつくる ために、学級担任が児童を多面的 に理解して支援する。 ・児童理解研修（4月）</p> <p>【生徒指導部2】・・・(5) いじめの知識理解の促進 ・教職員のいじめ知識理解研修（4月） ・ガイドブックの活用研修（4月） ・児童のいじめ知識理解授業（4月）</p> <p>【支持的風土部1】・・・(4) 傾聴と受容による生徒指導の実施 ・傾聴と受容研修（4月） ・きくさくスキルの徹底（通年）</p> <p>【支持的風土部2】・・・(3) 学級活動による、自治的集団の育 成（学級カンパネットの実施） ・学級カンパネットと研修（5月）</p> <p>【体育部との連携1】・・・(1) 運動や食事などを通して自分 の身体のことを考える ・善教と栄養教諭が連携した生活 習慣指導と食育指導（定期的）</p> <p>【生徒指導部3】・・・(5) いじめの早期発見・早期対応 ・いじめアンケート実施と全児童との 教育相談（年3回）</p> <p>管理職【有機的な関係機関との連携】・・・(2) ・ケース会議の実施（適宜）</p> <p>管理職【生徒指導部4】・・・(5) いじめ対応ミーティングとチームによる いじめ対応（いじめ認知時）</p> <p>（数字）は3の実践内容の各項目を示す</p>
<p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>8月</p> <p>6月～11月</p>	<p>(研修)</p> <p>「児童生徒理解と支持的風土研修」</p> <p>「いじめの知識と対応研修」</p> <p>「不登校の理解と対応研修」</p> <p>「授業と生徒指導の一体化研修」「人権研修」「UDL研修」</p> <p>一人一授業実践研修（共同的な学習の実践）</p>

5 成果

いじめの重大事態0件(昨年度0件)、いじめの認知件数91件(昨年度181件)、
 学校に起因する不登校児童数0名(昨年度0名)

担任が問題を一人で抱え込まないように、組織的に対応した。早期発見と適切な初期対応を大切にし、
 問題が生じた場合には、管理職や学年主任が指揮を執り、担任と関係職員とともにコアチームで迅速な解
 決を図ることができた。また、児童へのいじめ理解の授業を4月に実施したことで、児童のいじめに対す
 る認識が早期に高まり、認知件数の減少につながった。

全国学力学習状況調査「自分には、よいところがあると思いますか」肯定的評価89.5%
 新潟市生活・学習意識調査「自分にはよいところがあります」肯定的評価79.8%

「きらり浜っ子の木」(友達が頑張っていることや感心したことを葉っぱ型の紙に書き、玄関入り口の
 浜っ子の木に貼る活動)に取り組んだことで、友達のよい行動を意識付けさせるとともに、自己肯定感、
 自己有用感を高める一助となった。また、支持的風土を醸成するために、月に1回スキルトレーニングを
 各学級で実施し、傾聴態度の育成に向けて取り組んだ。

6 課題

学校支援課の推進する支持的風土の醸成、自立を促す生徒指導とR5年度より提案された「いじめ知識
 理解授業」「いじめの道徳授業」を実施したが、学校支援課が行う研修で事例を発表することができな
 かった。今後も引き続き研修を行い、事例を発表できるように実践を積み重ねていく。